

探訪 北の風景 110

ウポポイ(民族共生象徴空間) 胆振管内白老町

青木和弘

「ビョーン」「デューン」「ゴー」と多彩な音色を駆使するアイヌの民族楽器・ムツクリの演奏が、胆振管内白老町の、ウポポイを訪れた人々を歓迎する。来場者の足が止まり、つい、聞き入ってしまう。流れる音は奏者の息使いの微細まで聞き分けられ、まるで木々のざわめきや自然の息使いのようで、すっかり聞きほれてしまった。

白老の歴史は古く縄文時代前期(7000～5000年前)から続く。仙台藩の陣屋が設置された1855(安政2)年にコタンは海岸側に移り、1965年(昭和40)年にポロト湖畔に移転した。だから、シラオイコタンがあった「白老アイヌ民族記念広場」(高砂町2丁目)の辺りは聖地と言われ、そのアイヌ碑(2005年建立)にはこうある。



「私たちアイヌの先祖は、悠久の歴史をこの北海道シラオイ(白老)の大地に刻んできた。そして、自然への畏敬と恵みに感謝し、アイヌの生命を自然にゆだね、独自の精神文化や世界観などを育んできた。しかし、明治期以降の開拓の進展や同化対策などに伴い生活環境は大きく変化し、生活の不安と苦渋は筆舌に尽くし難いものがあつた」

ウポポイの開場時間は午前9時。それを目指して札幌から車で向かった。国立アイヌ民族博物館の入場には予約が必要で、午前10時から11時の整理券をインターネットで入手したので、野外の施設を先に見学しようと思っていた。でも、現地に行ってみると、体験交流ホールで伝統芸能や短編映画の上演などは無料で鑑賞できるのだが、予約制の座席指定だと分り、行列に並んで、博物館の見学が終わってからの、2つのプログラムを申し込んだ。早めに予約すると、いい席から順番に指定してもらえらうらしい。ほかの施設でも同時進行で、さまざまなプログラムが実施されるから、とうてい一日で見尽くすことはできない。

ウポポイのメイン施設は国立アイヌ民族博物館だが、その展示室を見学するのは後にして、博物館内のシアタープログラムや、周辺施設で繰り広げられる伝統芸能を先にご覧いただきたい。踊り一つを取り上げても、これまで観光地で見たものより圧倒的に洗練され、ステージは現代的な演出が駆使されているから見飽きない。出演者はみんな、ウポポイを運営するアイヌ民族文化財団の職員たちだというから、かなり練習を積んでき



国立アイヌ民族博物館の展示室は2階にある。1階にシアターがありプログラムは「アイヌの歴史と文化」と「世界が注目したアイヌの技」の2本。各20分で、続けて鑑賞できるので、展示室の見学前に見ておくと展示の理解に役立つ。完成度の高い伝統衣装や工芸品、現代作家の作品もあって興味深く見てまわれた

たのだらう。シアターでは自然と共生するアイヌ民族の歴史や文化、生きざまなどが紹介され、現代人が忘れかけていることへの警告を発している。博物館の展示を理解するのに役立つだろう。

白老町は太平洋に面し、東端は苫小牧市、西端は登別市に接している。登別市側に虎杖浜(こじょうはま)温泉があり豊富な湯量に恵まれている。

山岳地帯にはホロホロ山、オロフレ山、倶多楽(クッタラ)湖などがあり、大部分が支笏洞爺国立公園の国有林である。同町の人口は約1万5000人。白老牛で知られる黒毛和牛や、虎杖浜ブランドのタラコ、競馬のサラブレッド馬を輩出する牧場、日本製紙白老工場などがよく知られている。

戦後、多数の観光客がシラオイコタンに押しかけ、町民の日常生活に影響が出てきたため、観光開発が始まっていたポロト湖畔に移住して1965年にポロトコタンが誕生した。その後、ポロト



ウポポイの東側にある「伝統的コタン」エリアでは、丸木舟の実演解説が行われていた。舟の後方に立って乗り、さおを使って舟を操る。ポロト湖は波が静かでスイスイ進み、あっという間に湖の中ほどまで行ってしまった

「伝統的コタン」ではファミリー向けの紙芝居や、アイヌ語学習など、さまざまなプログラムを体験できる



白老産の鮭と野菜の鍋料理「チエフオハウ」。三平汁の元祖ともいわれるあつさりとした塩味で健康的だ

湖畔に温泉が湧き出てホテルが建ち、観光地化が進んだ。一方、アイヌ文化の保存と継承の機運が高まり、1967年に町立白老民俗資料館が誕生する。先祖の教えを伝え残したいと、古老たちからアイヌの風習を聞き取り、儀式や伝承を記録、家庭に伝わる祭具や日用品の収集も始めた。元北大教授児玉作左衛門が集めた有形民俗資料3000点が寄託されて新博物館構想が加速し、1984年にアイヌ民族博物館が誕生する。こうしてポロトコタンの学術的な活動が評価され、2020年のウポポイ誕生と国立アイヌ民族博物館の開館につながったといえる。

ウポポイには6時間滞在し、アイヌ料理もいただき楽しく過ごせた。ウポポイが名実ともに、「先住民が、差別なく敬意と尊厳をもって扱われる、豊かで多様な文化を備えた、前向きで活気のある社会の構築の象徴」となることを願ってやまない。